

はじめに



現在、インターネットと携帯電話の普及により、本格的な情報社会へ変革してきました。分からないことは辞典や辞書を引くから「ググル」、携帯電話も「ケータイ」となり、電話として使うよりもメールで話す時代となってきています。ホームページ技術も、ブログ、トラックバック、アフィリエイトという、インタラクティブで互いにつながりあった、Web2.0へと変化しています。

情報社会を提唱したアルビン・トフラーも近年の著書である『富の未来』の中で、富の源泉が技術的付加価値から知識的付加価値へ移行していると述べています。また、ダニエル・ピンク著『ハイ・コンセプト』では、「新しいことを考え出す人の時代」とも言われ、知識社会時代の到来を感じさせます。

一方、地方自治も町内会など従来型コミュニティの崩壊や、自治体財政悪化の中、「地方で出来ることは地方で」という課題を投げかけられています。そこで、自助・共助・公助あるいは公私協働を謳い、新しいタイプのコミュニティ形成や、新しいスタイルの地方行政が求められています。

本研究会では、北陸のICT利活用の数々の先進的な取組みを調査し、自治体の情報発信の状況をアンケート調査し、さらに横須賀市の状況についても調査しました。これらの調査結果をもとに、これからのICT利活用推進の仕組みについて研究しました。また、この研究会は、リアルな会議と同時にブログとメーリングリストを使った、Web2.0型の会議運営も試行してみました。セキュリティ管理から掲示板アクセスを禁止している自治体が多く活発な議論とはならなかったのは残念でしたが、クローズド設定する前の、オープン当初、他のブログからすぐ応援の記事投稿など反応があり、驚くと共にWeb2.0時代を実感いたしました。

結論として、Web2.0型のICT利活用を推進することとなりましたが、敢えてこのタイプの技術に「地域協働技術基盤」と名付け、みんなに情報が行き渡り、みんなで知恵を出し合い、その結果、便利で、安全なコミュニティ形成あるいは社会形成ができる仕組みを提案しました。ここからICT利活用で、北陸が21世紀型の豊かな地域社会へ、さらに発展していくことを、切に祈っております。

最後になりましたが、ご多忙中にもかかわらず本研究会にご参加いただき、熱心に議論していただきました委員各位並びに貴重なご意見・ご提言、ご協力をいただいた方々に心から感謝の意を申し上げます。

平成19年 3月

豊かな地域社会を目指すICT利活用推進に関する調査研究会
座長 金沢大学経済学部助教授 飯島 泰裕